



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



今年のこれまでの教育, 並びに年度末 に向けての教育方針

教育委員長 飯島 毅彦

今年度は学生, 教員ともにコロナ禍により教育方法に戸惑い, 試行錯誤をしてまいりました。これまでの教授方法の基本であった教室での講義ができなくなり, WEBを主体とした講義となりました。

教員はWEB教材の作り方を学び, より良い教材を目指してきました。これまでの教室での講義では, 例年使っているパワーポイントを繰り返し使用し, 学生はその内容をまとめたプリントを中心に勉強するという傾向がありました。しかし, かねてより教室での講義では理解し, 習得する内容は期待しているよりも少なく, 十分な理解を深めるには学生に自ら進んで学ばせる教授方法への移行が必要と考えられてきました。

この度のWEB講義はある意味では授業自身のブラッシュアップと一部ではアクティブラーニングのきっかけとなりました。WEB教材は繰り返し見ることができるといことから学生は理解できていないことを検証し, 再度, その場で内容の確認のための視聴をすることができました。そのため学生からの受容度は予想以上に高く, 教員も自らの教材の刷新に励むきっかけになりました。しかし, 個人の学習意欲に頼るところが多いため, 学生間の習熟度には差が広がった感があります。現在, 成績下位学生には修学支援の教員をつけて学習意欲の向上を促していますが, 今後のさらなる対策が必要となると考えられます。

年度末になり, 各学年ともに進級判定に関する考查が続きます。最近の統計分析では, 低学年での成績が高学年での習熟度に大きく影響することが明らかになってきています。高学年になってから勉強すればよいというわけにはいかなくなっています。

そのため, 各学年での履修科目の十分な理解度が求められているため, 進級判定も厳しくならざるを得ないこととなります。2年生の基礎科目, 3年生からの臨床科目はその順序性も整備され, 学習内容を



積み重ねていくことで歯科医師としての習熟すべき学力を蓄えていきます。4年生の年度末のOSCE, CB Tはその確認であり, 臨床に出ていく前の歯科医師の卵としての資格評価になります。これらの進級判定は5年生, 6年生も含めて密を避けた例年通りの実施を予定しています。

昭和大学歯学部の教育は通年でその在り方を検討し, 必要なことは躊躇なく改革をしているところです。コロナ禍により, 様々な変更も強いられましたが, 優れた歯科医師を養成するという方向はぶれることなく進めているところです。

学校推薦型選抜入試・編入学試験が 実施されました

入学支援課 阿部 萌子

11月28日(土)に, 令和3年度医学部, 歯学部, 薬学部, 保健医療学部の学校推薦型選抜入試と歯学部, 保健医療学部看護学科の編入学試験が旗の台キャンパスにて行われました。

今年度, 歯学部の学校推薦型選抜入試(25名募集)の志願者は46名, 編入学試験(若干名)の志願者は14名でした。

当日は天候にも恵まれ, 特に大きなトラブルもなく, 基礎学力試験に引き続き, 小論文試験, 面接試験の運営業務にご協力を賜りました教職員の皆さまに心から御礼申し上げます。そして, 合格発表は12月1日(火)午後3時に行われ, 学校推薦型選抜入試では25名(男8名, 女17名), 編入学試験では4名(男2名, 女2名)が合格しました。

今後の入試日程は, 下記の通りとなります。2月4日(木)の一般選抜入学試験(I期)・大学入学共通テスト利用(A方式)入学試験は, 東京試験会場(五反田TOCビル)の他, 大阪試験会場(新大阪丸ビル別館), 福岡試験会場(TKPガーデンシティ博多新幹線口)の計3試験場にて行います。

教職員の皆さまには今後ともご協力の程, よろしく願い申し上げます。



昭和大学学士会が誌上開催されました

学士会学術担当 柴田 陽

12月5日(土)に予定されていた昭和大学学士会総会は新型コロナ蔓延状況を鑑みて誌上開催となりました。本件についての原稿依頼を頂いたときは、実体のないものにどうやってコメントしたらいいだろうか？と、屏風の虎を縛り上げるよう殿様に言われた一休さんのとんち問答が脳裏をよぎりました。

学士会学術委員会では感染防止を考慮した開催方法に知恵を絞ってきた経緯もあり、誌上開催が決定した時点では少し残念に思いました。しかしながら、当日の東京都内新規感染者数は584人と本項執筆中の現在、過去最高を記録。誌上開催決定は慧眼であったと言わざるを得ません。年初から続いているコロナ禍によって殆どの大規模イベントは中止に。特に国際会議においては物理的に現地開催が不可能であり、学術活動の停滞が危惧されます。時期的に12月の学士会総会は学位審査を控えた大学院生の通過儀礼としての側面は大きく、人前で自分の研究成果をプレゼンすることは彼らの今後の人生において大きな意味を持つと考えています。

一刻も早く現在の感染状況が終息し、歯学部の特徴でもある活発な学術活動が再開されることを切に願います。

白菊会連合会総会が誌上開催されました

口腔解剖学講座 中村 雅典

白菊会連合会総会は、例年11月下旬に大井町の品川区立総合区民会館(きゅりあん)で開催されていますが、本年度はコロナ感染拡大に伴い誌上開催となりました。本年度は防衛医科大学校の主幹でしたが、総会開催の代わりに“令和2年度白菊会連合会総会に代えて”という冊子を作成し、会員に配布いたしました。本総会には毎年、文部科学省高等教育局医学教育課長が出席されることから、我が国の医学教育に非常に重要な活動団体です。

もくじ	
はじめに	白菊会連合会会長 小林 靖 1
挨拶	防衛医科大学校校長 長谷和生 2
祝辞	文部科学省高等教育局医学教育課長 丸山 浩 3
挨拶	日本解剖学会理事長 八木沼洋行 4
挨拶	篤志解剖全国連合会会長 大塚愛二 5
会務報告	白菊会連合会事務局長 高橋富久 6
次担当番校挨拶	日本大学松戸歯学部 近藤信太郎 8
新規加盟大学紹介	山梨大学医学部 小田賢幸、竹田 扇 9
	日本歯科大学新潟生命歯学部 影山幾男 12
加盟大学一覧	15

白菊会連合会は、昭和30年から続いている検体活動を継続発展させるため、大学が連携して平成16年に設立されました。現在は東京大学や昭和大学など9大学の医学部・歯学部13学部が加盟して運営しています。本年度は、これまでの白菊会連合会の活動に対し、日本大学医学部機能形態学系生体構造医学分野相澤信教授と昭和大学歯学部口腔解剖学講座中村雅典に感謝状が贈られました。

大学院春季Ⅰ期入試が行われました

歯学研究科運営委員長 弘中 祥司

令和2年11月21日(土)に令和3年度春季Ⅰ期 昭和大学大学院歯学研究科入学試験が行われました。志願者および受験者は3名で、今回は全員が合格されました(合格発表は令和2年12月17日(木)午後4時)。

春季Ⅱ期入学試験の出願期間は令和3年1月5日(火)～1月22日(金)13:00までです。出願書類提出先は昭和大学学事部大学院課宛(〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 電話:03-3784-8022)で持参する場合には受付時間:月曜～金曜 8:30～17:00で、郵送する場合には上記期間内に必着することで、必ず簡易書留郵便とし、「歯学研究科出願書類在中」と朱書きして下さい。春季Ⅱ期入学試験の試験期日は令和3年2月6日(土)で集合時間は8:40に昭和大学旗の台キャンパス4号館です。志望専攻科目試験がありますので、必ず志望専攻科目の主旨指導教員と事前に連絡をとってから出願してください。なお、春季Ⅱ期入学試験の合格発表は令和3年3月4日(木)16:00です。詳しくは本学大学院歯学研究科の入試情報のHPでご確認ください。

大学院でより高度な先端研究と深い洞察力を身につけましょう。たくさんのお願をお待ちしております。

ホームページURL: https://www.showa-u.ac.jp/education/grad_dent/admission.html

行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月16日(土)～17日(日): 大学共通入学テスト

受賞

広報委員長 中村 雅典

日本口腔組織培養学会 学術奨励賞

口腔生化学講座 笹 清人

宮下 元名誉教授が叙勲されました

広報委員長 中村 雅典

令和2年秋の叙勲において、本学名誉教授の宮下 元先生（歯周病学講座）が瑞宝小授章を叙勲さ



れました。今年はコロナ禍のため、皇居での拝謁ならびに叙勲伝達式は残念ながら中止となりました。先生への叙勲伝達は昭和大学法人を代表して榎宏太郎歯学部長から行いました。

先生は昭和44年に九州歯科大学を卒業され、東京医科歯科大学勤務の後、昭和52年本学歯学部創設時に歯科保存学講座（現歯周病学講座）に助教授として受任されました。平成13年に教授（員外）に就任され、平成19年退職され、名誉教授になられました。先生は、歯周病学の黎明期に、東京医科歯科大学で歯周病の新しい概念をいち早く取り入れて研究と教育に取り組み、現在の歯周病治療の基礎を確立されました。同時に、昭和大学では歯学部創立時から病院の設計や教育に関わり、歯周病学に新しい概念を取り入れた教育を確立するなど、昭和大学歯学部の発展に多大な貢献をされました。

学会活動では、日本歯周病学会で専門医審議委員会副委員長等の要職を務められ、その他にジャパンオーラルヘルス学会、日本口腔インプラント学会、日本歯科矯正専門医学会や国際口腔インプラント会議等での委員会で副委員長等を務められ、歯周病学だけでなく、歯科医療全般にわたっても多大な貢献をされました。

さらに、歯科衛生士の重要性を認知し、歯科衛生士学校や歯科臨床において歯科衛生士の教育・指導にも尽力され、その重要性の普及啓発を行い、歯科衛生士の医療行為が保険点数に導入されるなど、歯科衛生士の地位向上にも貢献されました。

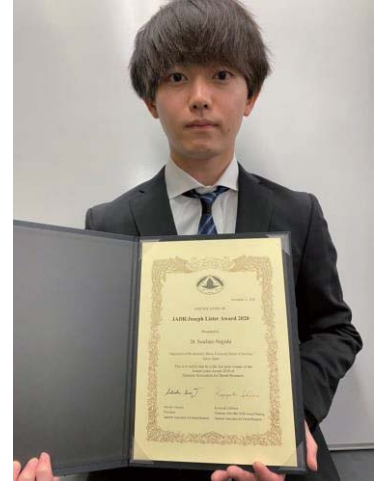
このような先生の業績が認められ、本年叙勲の栄誉となりました。先生の叙勲は私たち昭和大学の職員ならびに学生にとっても非常に名誉なことです。先生の益々のご活躍を祈念いたします。



JADRでJADR/Joseph Lister Awardを受賞しました

歯学部5年 根岸 宗一郎

この度、私は第68回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会におけるJADR/Joseph Lister Awardを受賞しました。私は昭和大学歯学部代表として「トレハロースによる破骨細胞形成の抑制」について発表しました。本大会は、全国の歯科研究に携わる先生方の研究発表の場であり、今回私はその中の学部生部門で研究発表をさせていただきました。例年はポスター発表（英語）形式で行われますが、今年度は世界的なCOVID-19の流行とその感染拡大を防止するため、ポスターの研究内容で一次審査、その後最終選考はオンラインにてプレゼンテーションを行うという形になりました。



私は4年次からマルチドクターとして口腔生化学講座に所属し、研究発表を行うのは今回で二度目となりましたが、やはり英語での発表というところで非常に苦労しました。特に今回は、質疑応答の時間も設けられていて、自然科学分野特有の英語や言い回しにとっても苦戦し、改めて英語を聴く力、話す力が重要だということを痛感致しました。研究室の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、多くの先生方のサポートのおかげでとても楽しく研究および発表準備をさせていただきました。2位に入賞することができました。

今後も研究活動を続け、この経験を活かして根気強く頑張っていきたいと思っております。最後に、今回の研究発表に対し、ご指導を賜りました口腔生化学講座の上條先生、宮本先生、山田先生、吉村先生、笹先生そして国際交流センターの橋本先生、マイヤース先生にこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

編集後記

口腔生化学講座 笹 清人

2020年は、COVID-19により様々な事が変革を遂げる年となりました。早く平穏な日々が戻るように切に願います。また、年末のお忙しい中、原稿をご執筆いただきました先生方に心から感謝申し上げます。

末筆ながら、2021年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈り申し上げます。